

活動成果報告書

平成29年度（第21回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

地域包括ケアを視野に入れた結核患者の服薬支援体制整備
～多職種連携による地域服薬支援の推進～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

瀬戸保健所 健康支援課 地域保健グループ

代表者：原口 浩美

勤務先：愛知県瀬戸保健所

所属：健康支援課 地域保健グループ

所在地：〒489-0808

愛知県瀬戸市見付町38番地の1

TEL：0561-82-2157

FAX：0561-82-9188



◇活動方針

愛知県瀬戸保健所の平成28年の結核罹患率は16.8で、愛知県（H27年13.2）や全国（H27年14.4）と比較して罹患率が常に高い地域である。また、年齢別結核発生状況では、70歳以上の高齢者が約7割を占めており、高齢者結核対策の一環として、在宅における結核患者の服薬支援を含む地域ケア体制を整備する必要があった。

そのため、結核患者が、多職種（薬局、訪問看護ステーション、介護保険関係者等）との円滑な連携による支援を受けることにより、確実に治癒できるための体制整備として、DOTS（Directly Observed Therapy Short-course）による地域ケア体制整備に取り組むこととした。

平成28年度は、地区薬剤師会と協働して、地域の服薬支援の基盤となる薬局との連携づくりを行った。さらに平成29年度は、薬局DOTSの実施例を積み重ねるとともに、多職種との連携による地域DOTSの展開に取り組んでいる。

◇活動内容とその成果

平成28年度 『服薬支援の基盤となる薬局との連携づくり』

1. 薬局へのアンケートによる実態調査

地区薬剤師会の協力により、薬局へのアンケートを実施し、薬局での結核患者の服薬支援の認識や不安について把握することができた（回答数100/回収率52.6%）。

「DOTSという言葉を知っている」と回答した薬局は29薬局（29%）、「DOTSを実施するにあたり感染

活動成果報告書

への不安がある」と回答した薬局は70薬局（70%）であった。

また、アンケートの結果は、管内薬剤師会会員を対象とした研修会の講師へ事前に報告し、講演内容に反映させた。

2. 研修会の開催

地区薬剤師会研修会を保健所との共催で開催したところ、薬剤師会が実施した過去の研修を上回る参加者があり関心の高さが確認できた。

研修会後の感想では「結核に対する知識やDOTSについて理解ができ、感染への心配や不安が減少した」「多職種との連携のモデル事例報告により、具体的な薬局の関わりがイメージできた」等の声があり、地域DOTSの必要性について理解が進み、研修会の成果が確認できた。

《研修会の状況》

【日 時】 平成28年9月24日（土）午後1時45分から3時30分まで

【内 容】

① 瀬戸保健所管内の結核の現状

② 薬局の実態調査結果の報告

③ 結核専門病院医師による講演

「結核の基礎知識と最新医療及びDOTSについて」

④ 多職種との連携によるモデル事例の報告

「主治医、薬局薬剤師、訪問看護ステーション看護師、保健所保健師によるシンポジウム」

3. 薬局DOTSモデル事例の実施

平成29年3月末までに13事例の薬局DOTSを実施した。13事例のうち、1事例は薬局を含む多職種連携によるDOTS、12事例は薬局窓口対応によるDOTSであった。

多職種連携による事例では薬局が訪問DOTSを実施し、服薬カレンダーのセット、抗結核薬及び他疾患の薬の残薬確認、副作用による一時的な中止薬の残薬調整も次回処方時に行った。

高齢者結核対策の一環として始めた薬局DOTSであったが、対象者は高齢者だけでなく幅広い年齢層となり、薬局DOTSは様々な年齢層・生活スタイルに合わせて活用できることが分かった。

4. 事業の報告会の開催

【日時】 平成29年2月3日（金）午後2時から3時30分まで

【内容】 ①モデル的に実施した地域DOTS事例の評価

②瀬戸保健所結核患者の薬局DOTS実施要領についての検討

③意見交換

5. 薬局DOTSの体制整備

瀬戸保健所結核患者の薬局DOTS実施要領、手順書、報告書等を事業の報告会で協議し承認を得た。さらに、管内の薬局DOTS実施機関一覧を作成しホームページに掲載した。

6. 平成28年度の事業成果

薬局と連携した地域DOTSの推進事業では、薬剤師会の協力により、13事例について効果的にDOTS支援ができ、事例の経験から瀬戸保健所結核患者の薬局DOTS実施要領、手順書、報告様式等を作成することができた。

活動成果報告書

また「瀬戸保健所結核通信」を新たに作成し、管内医師会会員及び薬剤師会員等に配布し瀬戸保健所の結核の状況や取組みについて周知できた。

引続き、薬局に加え介護保健関係機関の協力を得て、多職種連携による地域包括ケアとしての地域 DOTS を進めることとした。

◇今後の計画

結核患者の多職種による服薬支援は、治療成功に向けてお互いの役割と共通の目標がイメージしやすく、具体的な体制整備を検討することができた。今後は、結核患者の服薬支援体制整備から、結核患者以外の在宅要支援者へ拡大し、地域包括ケアを視野に入れた連携をさらに充実することが期待できる。

平成 29 年度 『多職種との連携による地域 DOTS の展開』

1. 多職種と地域 DOTS を進めていくための基盤整備

- (1) 地区薬剤師会の例会等で、H28 年度作成した薬局 DOTS の際の手順書、地域 DOTS を実施する際に活用するためのツール、保健所への報告書等について説明
- (2) 介護事業所連絡会等で地域 DOTS 事業説明会の開催
- (3) 研修会の開催

対象：①薬剤師会会員（薬剤師会会員）

②在宅支援者（介護保険関係者等）

内容：「結核の基礎知識と地域 DOTS について」

講師：結核専門病院医師

- (4) 各職種に応じた連携ツールの検討（連携用紙等）

2. 多職種による地域 DOTS の実践

方法：①所内 DOTS 会議で多職種 DOTS の事例選択

②退院前のカンファレンスへ関係機関が参加し、個別支援計画作成

③多職種による地域 DOTS 実施

3. 報告会の開催

参加者：地域 DOTS 実施関係者

主治医、薬局、訪問看護ステーション、介護保険関係者等

助言者 結核研究所 対策支援部 副部長（兼）対策支援保健学科 科長 永田容子氏

4. 関係機関へ結核通信発行（1回）

配布先：管内医師会、管内薬剤師会、訪問看護ステーション、介護保険関係機関等